

を応援したい。

平成29年度の寄附額は1億3千800万円



ふるさと納税制度とは

一般的に「ふるさと納税」と呼ばれていますが、実際には税金を納めるのではなく、ふるさともしくは自分が応援したいと願う自治体への「寄附」のことです。寄附された方は、寄附額のうち2千円を超える部分について、所得税と住民税から控除される制度です。（一定の上限はあります。）

制度が生まれた背景

地方の町や村で生まれると、そこで数々の行政サービスを受けながら育っていきますが、進学や就職を機に大都市へと生活の場を移しそこで社会人として納税することになります。その結果、地方の町や村では人を育てるために沢山の税金が使われながら、やがて

でふと「ふるさと」に想いを寄せるひと。まだ行くと。それぞれの暮らしぶりは違っても「何かの形が全国各地から本町に届けられています。私たちに感謝し、これからのまちづくりに大切に活かし

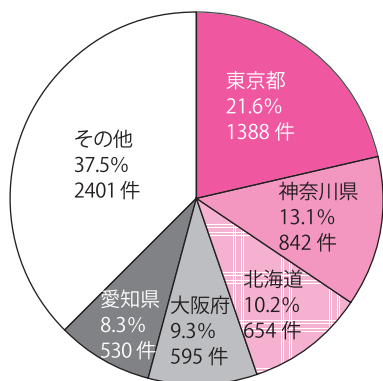
社会人となった暁には大都市に税金を納めるといふ不均衡が生じています。

そこで、「今は都会に住んでいるけれど、自分を育ててくれたふるさとにいくらかでもお返しできる制度があっても良いのではないか」との願いから生まれたのが「ふるさと納税制度」ですが、本町では「ふるさと妹背牛応援寄附」と呼んでいます。

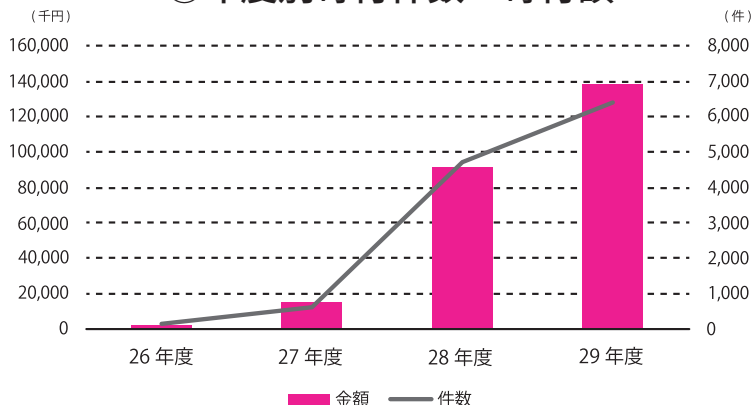
全国各地から たくさんの方の応援寄附が

妹背牛町が「ふるさと妹背牛応援寄附」を呼びかけた平成26年度の寄附件数は164件、金額にして220万円程でしたが、平成29年度には6,408件、1億3,800万円と、急激な伸びとなりました。（下図①）この背景には、全国的にふるさと納税への意識が高まったことと、本町でもインターネットの募集サイト「ふるさとチョイス」を通して広く呼びかけたことがあります。この制度により、これまで「妹背牛町」の名さえ知らなかった大都市の人々からも応援寄附を頂くことができました。（下図②）特に年末には膨大な数の申し込みが集中し、連日発送作業に追われるなど嬉しい悲鳴をあげる程です。中には年間に何度も寄附される方や、毎年寄附を頂く「妹背牛ファン」も年々増加しています。

②都道府県別寄附件数 (H29)



①年度別寄附件数・寄附額



北のふるさと



生まれ育った妹背牛町を離れ、都会暮らしの中たこともない北国の小さなまちに想いを寄せるひでふるさとを応援したい」と、たくさんの「想い」は、全国の皆様から寄せられた「ふるさとを想う心」てまいります。

寄附される方のニーズにあわせた返礼品

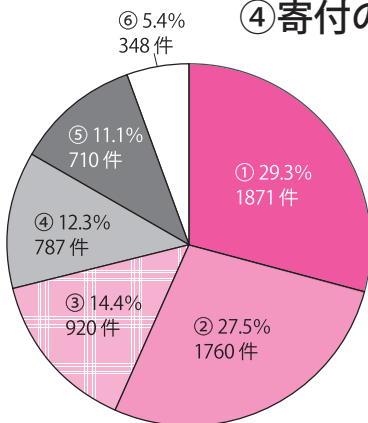
ふるさと応援寄附の返礼品は、それぞれの地域の特質を活かした「まちの一品」を提供することになっています。本町では、わがまち自慢の高品質米を中心として数多くの品揃えをしています。これらは、秋の収穫後すぐに精米・袋詰めする「産地直送の新米」、さらに鮮度を保持できる真空パック入りも用意するなど、米どころならではの鮮度と安心・安全品質が人気の秘密。また、多額寄附の場合は数量も大きくなるため、複数月の分割発送や、別な場所へ暮らす家族へも一部お送りするなど、多様なニーズにあわせたきめ細かな対応をしています。(下図③)

ふるさと応援のご意思に込める使い道を

ふるさとを応援するからには、寄附される方のご意思がそのまちの振興・発展に反映されることが大切です。本町では(下図④)に示す6項目から寄附者を選択して頂き、そのご意思にできるだけ沿えるように配慮しています。なお、寄附金は全て「ふるさと妹背牛応援基金」に積み立てられ、これまでに、カーリングホールのビデオカメラ整備やうらら公園のバッテリーカーの購入など、有効に使わせて頂きました。

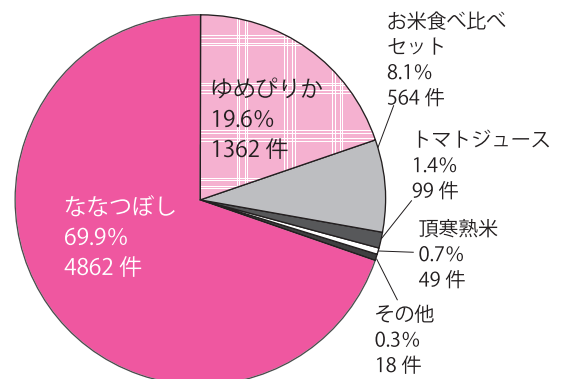


④ 寄付の用途 (H29)



- ① 活力のある地域産業を創出するまちづくり
- ② その他町長が必要と認めたまちづくり
- ③ 魅力にあふれ未来につなぐまちづくり
- ④ 地域で支えあう福祉のまちづくり
- ⑤ 安全で快適な生活環境のまちづくり
- ⑥ 創造性豊かな生涯学習のまちづくり

③ 人気の高い記念品 (H29)



得たものは・・・ 頂いたことと、 善意のご寄附はもとより、 わが町の自慢のお米を見直して 全国の方々と心の交流です。

ゼロからのスタート
当初は全くの手探り状態

「この制度がスタートした当初、妹背牛町の取り組みは？」

北口 ふるさと納税制度は、以前からありましたが、こうして返礼品をつけるようになったのは平成26年。当初は「寄附の周知をどうするか」「申し込みはどの程度あるのだろうか」「何を返すのか」など、全くの手探り状態でしたが、「やはり米どころ妹背牛なら自慢の高品質な米で行こう」ということになりました。

「こんなにも多くの「ふるさと妹背牛応援者」が増えた要因は？」

北口 全国の人々にわが町を知って頂くために、平成26年からインターネットでの募集・受付を開始しました。また、27年度からはクレジット決済システムも導入したことで、いつでもどこからでも寄附できる環境が整い、急激に寄附額が増えることになりました。



連日のトラブルを
一つひとつ乗り越えて

「急激な増加によるトラブルはありましたか？」

北口 ネット上では24時間受け付けていますが、その後の事務処理や発送作業は人手によるもの。大量のデータ処理に戸惑い、案内書や採納証明書の発送遅れ、記載ミスも多々ありました。また、全国に配送する

過程で、梱包の破損や急激な温度変化による変質などが発生し、大変ご迷惑をおかけしたこともあります。

こうしたトラブルの原因を一つひとつクリアすると共に、コンピュータ処理システムも導入し正確・迅速な対応ができるよう改善を図ってきました。

多額の寄附金とともに、
数多くのメッセージも

「ふるさと妹背牛応援寄附で得たものは？」

北口 数々のトラブルにより、ご寄附を頂いた方から多数のお叱りの電話を頂きましたが、まずは真摯にお詫びしすぐに代替え品をお送りするなど、できる限り誠実に対応してきました。また、「大変おもしろかった」「来年も送ってもらいたい」など嬉しいメッセージも頂きましたが、こうしたお叱りや、励ましの声全てが「妹背牛町への熱いメッセージ」と感じています。

いま振り返ると、この制度により得たものは多額のご寄附を頂いたこととはもとより、全国各地にわが町自慢のお米を知って頂いたことと、ご寄附頂いた大勢の方々と心の交流ができたことと感謝しております。

ご寄附頂いた方々からのメッセージ

- ・今年も北海道からと思い妹背牛町への寄付を決めました！しかも玄米なので白米より1kg多い、そのお心遣いが嬉しいです!! 機会があれば妹背牛町を訪ねてみたいと思います。 神奈川県 M.Y様
- ・アメリカにいる息子から「美味しいお米を送ってほしい」と懇願され、妹背牛町のお米を選ばせていただきました。 愛知県 T.T様
- ・一昨年寄付させていただき、お米のおいしさにひかれました。真空パックもありがたかったので今年も選びました。 福岡県 S.H様
- ・次代を担う子供たちがのびのびと育ち、将来に安心して暮らせる街づくりを期待しています。 みなさん頑張ってください。 神奈川県 T.M様



△北口企画振興課主幹

寄附応援牛

り組みを始めた当初は、全国的に妹背牛町の知が今や全国各地より1億円を超える寄附金が寄牛応援寄附のスタート当初より一貫して運営に時から現在に至るまでの歩みを聞いてみました。ばない」と言われていた道産米も今や全国でも壤に恵まれた妹背牛町で「とことん品質にこだ広田課長に「妹背牛のお米」について聞きました。

ふるさと妹背

本町が「ふるさと妹背牛応援寄附」の取
名度が低く、返礼品はわずか数種類。それ
せられるまでになりました。ふるさと妹背
携わってきた、企画振興課の北口主幹に当
また、かつては「本州産の米には遠く及
トップクラスの品質に。なかでも豊かな土
わった米作り」を推進している、農政課の

礼品として用意したお米は、食味特
Aランク※2の「ゆめぴりか」と「な
なつぼし」です。それも、「タンパク
値6.8以下※3」となるよう調製し、高
品質にこだわっています。これらは、
田んぼの畦にハーブを植栽し農薬散
布を極力減らした安心・安全なお米
「北彩香」です。本町農業者の熱意と
技術の極みと言えるものです。



←タンパク値6.8以下の設定米



←氷温熟成させた特別贈答米

です。また、真空パックにすることで
3カ月以上は新鮮な食味を保持できる
ようにしました。昨年度から返礼品に
加えた「頂寒熟米」は、氷結直前の温
度で一定期間保管し、より旨み・風味
を引き出すよう熟成したものです。

「返礼品に妹背牛米を採用して良かったことは？」

「妹背牛の美味しさ」を
直接お届けしたい。

「美味しく食べてもらうための工夫は」

廣田 ふるさと妹背牛応援寄附は毎
年6月から受け付けていますが、返
礼品をお送りするのは秋の収穫後に
なります。採れたてのお米をすぐに
精米し、「妹背牛の美味しさを直接お
宅までお届けしたい」との願いから

廣田 これまで「妹背牛町産米」と
して販売できたのは、道内の一部生協
のみ。それが、返礼品に採用されたこ
とで、一気に全国各地へ届けられ、多
くの方々に見直してもらえ、良い機
会となりました。ご寄附を頂いた方か
らは、「たまたまネットで申し込んだ
ところ、送ってもらったお米が大変美
味しかった」と嬉しい声を頂いたり、
これを機にリピーターとなつて直接購
入の申し込みをされる方もいらつしや
います。

裏方を支えるのは
ふたりの若い力

秋の収穫直後より精米から梱包・発
送までの作業を一手に担っているのが、
地域おこし協力隊の若者たち。農業関
係の現場は初めての経験ながら、昨年
は、新たな返礼品のひとつ「ハーブリ



△中村隊員(左)・祐川隊員(右)

キュール」の開発にも携わりまし
た。「農家の方々が丹精こめて作っ
たお米に最後の仕上げをして全国
に送り出す役目。自分たちの仕事
が形となつて見えることにやりが
いがあります。」(中村)「時折、
お米をお送りした方から「とても
おいしかった」との声をいただき
疲れも一気に吹き飛びます。」(祐
川)

全国各地からのふるさと妹背牛
への応援に応えるため、こうした
裏方の存在も欠かせません。



△廣田農政課長

せっかく送るなら、妹背牛の旨いものを・・・
ご寄附頂いた皆さんに喜んでもらうように、品質には特にこだわりました。

「返礼品に妹背牛町産米を使うことになつたのは？」
廣田 ご寄附を頂いた方々には何らかのお礼の品をお贈りする訳ですが、「せっかく送るからには妹背牛の旨いものを・・・」ということであれこれ模索しました。本町の特産品といえ、やはり肥沃な土壌と豊かな水から産み出された「米」ですね。すでに市場評価では最高のAランク※1に位置づけられており、自信を持つてお贈りできるものです。
「返礼品として用意したお米はどんなものですか？」
廣田 ふるさと妹背牛応援寄附の返

※1 流通市場における米の人気を分析し、北海道では4段階で評価している。

※2 日本穀物検定協会による、炊飯した白飯を試食し6項目について食味官能試験に基づいた評価。

※3 食味等の基準で、数値が低いほど美味しさが増すと言われている。